保護者のみなさまへ

コレだけは知っておきたい！ イマどき教育NEWS

変わる！ 高校入試

主体的に解決策を考え、伝える力を！

大学入学共通テストに先駆け、ここ数年、全国の公立高校の入試が変化してきています。どの教科でも「思考力・判断力・表現力」が重視され、自分の意見を書かせる記述式問題の出題が増えてきたのです。2021年春の公立高校入試問題を見ながら、石川一郎さんに解説していただきました。

高校入試はこんなに変わっている!!

4　次は、太郎さん、次郎さん、花子さんが、福井県の観光の現状と課題について話し合いをしている場面である。以下の問いに答えよ。

（前半省略）

太郎　福井県を訪れる観光客が増えるといいね。そのためには企画だけではなく宣伝も必要になるね。

次郎　私は、駅にパンフレットなどをたくさん置くことを提案する。

花子　それもアイデアの一つだと思うけど、私は、それよりも別のアイデアの方がいいと思うわ。

次郎　ただ、観光客増加による経済効果は期待できるけれど、心配なこともあるよね。

太郎　それらに関しては、④すでに地方自治体で様々な対策が行われているようだよ。

(5)　下線の部分④について、太郎さんは2019年度時点での観光客増加による課題と地方自治体の対策を次郎さんに説明することにした。どのように説明すればよいか、次の条件をふまえて書け。

【条件】

① 観光客増加による課題と地方自治体の対策の両方を書くこと。

② 資料3～7のすべてをふまえること。

③ 140字以上、160字以内で書くこと。

資料3　嵐山ゴミ箱マップ

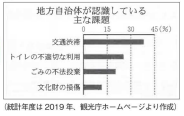
資料4

（国土交通省資料より作成）

資料5　啓発ステッカー

（福岡市ホームページより作成）

資料6



（統計年度は2019年、観光庁ホームページより作成）

資料7　啓発動画の一場面

（京都市情報館ホームページより作成）

（福井県公立高校　2021年度　学力検査問題　社会より）

今後の福井県の社会では、全国同様、生産年齢人口が19%、高齢者人口が40%を占める！

多種多様な情報を正しく読み取り、課題を発見する

まず左の問題をご覧ください。問題は生徒の対話から始まります。この大問だけで、掲載したものを含め、資料7つ、グラフ4つ、記述式問題が3問も！　これは、今春行われた福井県の公立高校入試【社会】の問題ですが、一見して、資料のボリュームにびっくりしませんか？

この記述式問題は、次の3段階のプロセスで解答を仕上げることが求められます。

1. 問題文を正しく読み取り設定を把握する
2. 条件をふまえ資料を的確に読み取る
3. 根拠を明らかにして自分の考えを書く！

1. 5つの資料を踏まえ、太郎さんが次郎さんに「観光客増加による課題と地方自治体の対策」を説明する、という設定を把握する。

2. 条件を頭に入れて、各資料を読み取る。身近にあるバリエティに富んだ資料を、正確に分析する力が求められる。

3. 2読み取った観光客増加による課題について、各自治体が講じている対策を、自分の言葉で他者に伝わるよう工夫してまとめる。

福井県が公表している解答例を見てみましょう。

[解答例]

観光客増加による課題と対策として、まず交通渋滞については、観光地に行くための車線を作ることで渋滞緩和の対策をしている。次に、トイレの不適切な利用や文化財の損傷については、スッカーやゆ動画を作成して、啓発活動を行っている。さらに、ゴミの不法投棄については、ゴミ箱マップを作成し、ゴミ箱の設置場所を観光客に知らせている。

この問題から、子どもたちには、情報を入手し、それを正確に判断し、課題を見つけ、対策を考える力が必要だ、というメッセージが読み取れます。

お話してくださったのは……

石川一郎さん
聖マーガレット学院大学マネジメント学科
カリキュラムマネージャー

1962年東京都生まれ。早稲田大学教育学部社会学科地理歴史専修卒業、30年にわたり中高で教鞭をとり、かえつ有明中・高等学校校長、香里ヌヴェール学院学院長を務めたあと現職。著書に『2020年からの新しい学力』『学校の大問題　これからの「教育リスク」を考える』（ともにSB選書）など。

記述式問題が求めるのは アタマの中の思考プロセス

オモテ面の問題は１００点中８点の配点で、かなりウエイトが高くなっています。この問題が示すように、今の高校入試は、保護者のみなさんが受験した頃とは大きく変わっています。

知識だけをストレートに問う、一問一答のような問題は減少傾向です。むしろ、長い文章を読ませ、さらに表や図、グラフや写真、ホームページなどの資料など多種多様な資料を与え、それらから読み取った情報を客観的に判断し、自分の意見を考えて主体的に書く問題が、全国的に増えています。

つまり、必要なのは「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」を組み合わせた力。もっと言えば、「この問題はできないや」と挑戦しない子に、間違ってもいいから書いてみる子とでは「学びに向かう力」や「生きる力」の醸成度も違います。そこも問うているといえます。解答欄が真っ白な状態よりも、「おもしろい問題だなあ！」と思って自分なりに解決策をひねり出した答えに、その子の興味・関心・意欲・態度がこもっているかを、高校側は測ろうとしているわけです。

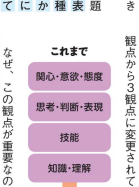
（「ふくいの教育」平成３０年１２月版より）

▶福井県は、高校入試で「思考力や知識活用力を評価する記述・論述型の問題」を拡充することを、リーフレットでも公表している

１学期の通知表に要注目！ 評価の観点が変わっている

また、もうひとつ、高校入試に関して、押さえておいていただきたい重要なポイントがあります。それは評価の観点が変わったことです。

２０２０年度から小学校、２０２１年度から中学校、２０２２年度から高校で施される新しい学習指導要領では、育成したい資質・能力などの教育目標や、教育内容の再整理と合わせ、小中高を通じて、評価の観点が４観点から３観点に変更されています。



なぜ、この観点が重要なのかというと、通知表の評価に直結するからです。たとえば、中学校社会で、オモテ面の問題に関連する単元の評価基準の例を見てみると、次のようになっています。

【中学校社会　評価基準の例】

単元「日本の諸地域　中国・四国地方」の場合

知識・技能……①
- 中国・四国地方について、その地域的特色や地域の課題を理解している。
- 人口や都市・村落を中核とした考察の仕方で取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解している。

思考・判断・表現……②
- 中国・四国地方において、人口や都市・村落を中核に設定した事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。

主体的に学習に取り組む態度……③
- 中国・四国地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

（令和２年３月　国立教育政策研究所「「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料　中学校社会」）

右の単元では、**地域の課題を自分事として考え、解決策を導く力を育成すること**が目標です。そのための理想的な学びの順番は、③→①→②だといえます。地域をよく知ることには③、その地域を知り課題を理解し、①、さまざまな角度から考察し課題の解決策を考える、②ことが必要だからです。**「よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究する」過程で、知識・技能を身につけ、思考・判断・表現する力を培っていく。**

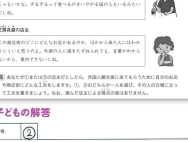
しかし、この評価が難しいのです。

そのため学校は、友だちと協力して積極的に授業に臨んでいるか、提出物を出しているか、発表の回数など、その子の「努力」で評価し、通知表の成績を付けてきました。けれども、「努力」だけが「主体的に学習に取り組む態度」ではありません。ですから、通知表をよく見ていただきたいのです。

つまり、今、求められているのは、**主体的に課題の解決策を考える力、①～③が混ざり合った力**だといえます。オモテ面の福井県の問題がまさにそうなっています。公立高校入試には国英や数グラフ、対話の読み取り問題や記述式問題が増えているのは、①～③が混ざり合った力を見るようとしているからでしょう。公立高校の一般入試は、時間制限のあるペーパーテストですので、子どもの頭の中を見ることはできません。**自分の考えを紙に書いて表現してもらう**しか採点しようがありません。

こうした入試に立ち向かう志望校の合格を勝ち取るには、**「普段から考える習慣」**が欠かせません。「思考停止」ではダメなのです。「小さな疑問をそのままにしないで調べる、家族で話し合う、塾の先生に自分の考えをぶつけてみるなど、問題ごとを恐れずに思考をアウトプットすることを日常的な習慣**にしてほしいと思います。

【参考】２０１８年「あすがく」小５の問題より


7. 近年、あるお土、エコクラーの観光地として人気となり、外国人観光客も多く来ています。そこで、その地の観光協会では、外国人観光客に向けた自由にまるいるいたいと考えました。次は、観光協会の方が提案です。これらの提案を参考にして、あとの問題に答えましょう。
①そば屋の提案
この地域には、ほかにレストランがないから、お客さんはそばばかりを食べていないんんん